

二〇一七年 五月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

あやまちを指摘する人は宝のありかを知らせる人

『法句経』

怒られたり、注意されることは気持ちのいいものではありません。もっともなことを言われているのに、素直にそのことに従わないときがあります。もしかすると、「なぜ自分がそんなことを言われなければならないのか」と、腹が立つことさえあるかもしれません。

しかし指摘は悪口ではありません。指摘する人は何もあなたのことを傷つけようと思っていないわけではないのです。むしろあなたに足りないことを教えてくれると考えるべきでしょう。

あなたにとって一生涯の宝となるような大切なことを教えてくれる人は、意外に身近にいるあなたを指摘してくれる人なのかもしれません。

今月の聖語

善き友があり 善き仲間と ともにあることは

この聖なる道の すべてである

『雑阿含経』

ある日、弟子アーナンダは釈尊に次のように尋ねました。

「善き友、善き仲間とともにあれば、聖なる道の半分を達成できたことになりませんか」
それに対して、釈尊は「今月の聖語」をおっしゃいました。聖なる道とは、仏になるための道、すなわち仏道のことです。善き友があり、善き仲間とともにあれば、仏道の「半分」どころか、「すべて」を達成できるといふのです。裏を返せば、たった一人では、何も成し得ないとも言われているのです。

振り返ってみますと、落ち込んでいる時、笑顔でそっと話しかけてくれる人。腹を立てている時、黙って話を聞いてくれる人。勉強や部活で、お互いに高め合える人。身近な所で、気付かぬうちに、自分を支えてくれていた人たちが必ずいます。

そうした「善き友」「善き仲間」があつて初めて、私は何かを達成できるのです。

また一方で、自分が誰かの「善き友」「善き仲間」でありえているか。釈尊の言葉に耳を傾け、今一度自分を見つめなおしたいものです。

宗教教育係